

農林漁業現地事例情報「食料自給率向上に資する取組事例」

食料自給率向上に向けて重点的に取り組むべき事項等に基づいた取組の分類：

イ 国産農産物の消費拡大の促進の取組

取組名： 「米の輸出プロジェクト」 取組主体： JAたいせつ（北海道・鷹栖町）・株式会社ジャパード（旧サテライツ）、 （北海道・旭川市） 取組紹介： JAたいせつは、道産品を中心に輸出を手掛ける旭川市のベンチャー企業株式会社ジャパード（旧サテライツ）と連携し、国内初となるポーランドへ20年産米6.5tを輸出した。
--

公表の可否	可	個人情報掲載の可否	可	外部からの問い合わせの可否	可
-------	---	-----------	---	---------------	---

<h3>1 取組の背景</h3> <p>JAたいせつは、平成15年2月に、JA東鷹栖とJAたかすが合併し発足した。合併と同時に特産係も新設され、その主な業務は、米穀の集荷業務、独自ブランド「JAたいせつ米」など特産品の広域販売業務であった。新たな米の販路拡大を目指すため、米輸出に向けて調査研究を始め、17年には香港・中国（深圳）、18年には台湾（上海）・中国（南京）へ商談、19年には台湾などと米輸出調整を幾度となく行うが、商習慣の違いや価格面で折り合いがつかず状況は停滞していた。その後、20年に同農協と兼ねてから取り引きのある米穀業者の紹介で株式会社ジャパード（旧サテライツ）と出会った。同社は食品だけでなく、輸出に関するさまざまなノウハウを持つベンチャー企業で、地場産業の新しい販路開拓による地域貢献を経営理念に掲げており、日本食への関心が高まっているポーランドで日本米がほしいとの要望を受け、品質が良く価格も手頃で、国内外で販路拡大を目指している同農協に話が持ち込まれ、20年12月全国でも初めてとなるポーランドへの米輸出が実現することとなった。</p>
<h3>2 取組の具体的内容</h3> <p>輸出米は、現地の要望を受け500gごとに袋詰めされ、パッケージにはポーランド語で炊き方の説明、国の輸出促進ロゴマークや「JAたいせつ米」と書いたシールを張ってアピール、梱包資材は斜めのミシン目を入れて開封可能とし、そのまま陳列できるスタイルとした。同社が6.5トンを買取り、12月下旬に苫小牧港から冷蔵コンテナにて船便で搬送され、約40日後の21年2月上旬頃、現地に到着し販売された。</p> <p>同社と現地の輸出入業者が北海道米をナショナルブランドとして食品仲卸、大手スーパーに展開するべく調整を行い、北海道の「スシライス」として広く味わってもらえるように価格水準はできるだけ低く抑え、一般消費者向けも視野に入れて販売されている。</p>

3 取組の具体的効果

北海道米の消費拡大につながっていること、テレビや新聞で報道されたことなどから、知名度UPにもなっている。また、旭川食品産業支援センターは、21年4月旭川市内で販路拡大セミナーを開き、株式会社ジャパード代表者と同農協担当者が、市内の食品関連会社などに対し、地場産品の販路拡大、海外輸出の経緯や食品を輸出する際に必要な手続きなどについて講演を行った。

4 今後の展開方向

継続的な米輸出となるよう、販売状況や輸出入業者の意向確認のため、現地での市場調査を予定しているが、現地での市場調査には、多額の費用がかかることから、各種補助金等を検討している。また、アジア圏においても今までの商談先を含め、輸出の可能性を探り、今後も米輸出プロジェクトを進め、北海道米の良さ、「安心・安全」を広く海外にPRしていく。

5 取組に係る問題点と解決策

海外での取引上のリスクを解消するために代金の回収については、売り手にとって安全な信用保証となっている信用状取引を同団体で実施し、輸出前に代金の回収は行われている。

画像



○JAたいせつ米を輸出パッケージに袋詰め・箱詰めする作業。



○現地で販売されるパッケージ（500 g 入り）

【情報収集官署】北海道農政事務所 旭川統計・情報センター

連絡先：0166-76-1278

<本事例の収集時期：平成21年7月>